

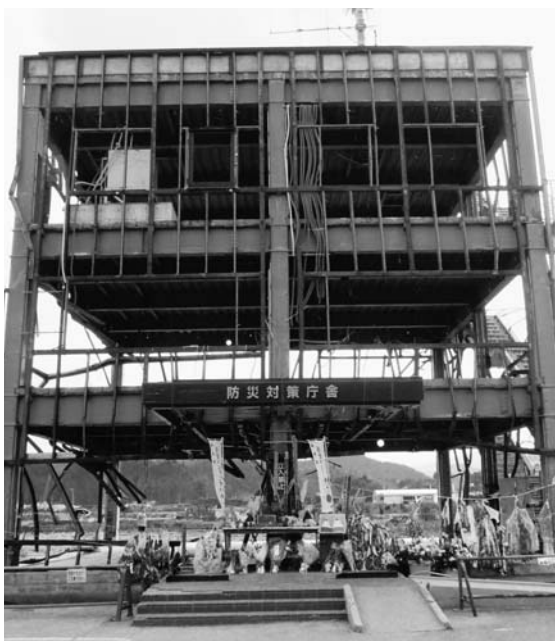
復興支援レポート

再度、被災地を訪問したかさまるくんとかさまるちゃん ～東日本大震災復興イベントに参加しました～

笠松町のマスコットキャラクター かさまるくんとかさまるちゃんは「一般社団法人日本ご当地キャラクター協会」が呼びかけて結集した「東日本ご当地キャラ応援団」の一員として、7月28日・29日と宮城県南三陸町を訪れました。

現地に到着して、まず、目に飛び込んできた光景に、一同はあぜんとしました。震災から約1年半経った今でも、津波の衝撃が生々しい傷だらけの建物や変形してしまった鉄の塊の山、津波に流された建物の基礎部分が一帯に広がっていました。

あれから復興は少しでも進んでいるものだと考えていた私たちは、言葉を失いました。そして、みんなが口をそろえて「こんな高さまで波が来たのか」と指を差した建物が「防災対策庁舎」です。3階建ての庁舎の高さは10メートル程あり、その屋上付近にまで津波の爪痕が、今でも消えることなく、残っていました。震災当時、津波がこの建物付近まで押し寄せていたにもかかわらず、この庁舎から最後まで避難誘導の無線放送をし続けていた町職員が、日本中の人の胸に刻まれたことは、記憶に新しく、庁舎の前には多くの花などが供えてありました。



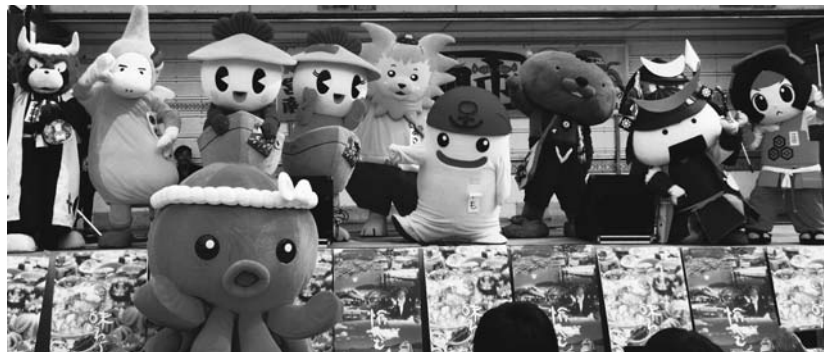
南三陸町防災対策庁舎



お店の人と触れ合うかさまるくん



子どもたちと触れ合うかさまるちゃん



ステージではキャラ全員集合し、盛り上がりました

月1回開催される南三陸町のイベント「福興市」では、かさまるくんとかさまるちゃんを含め、総勢10キャラの応援団員が会場内を歩くと、すべての人が笑顔になりました。しかし、かさまるくんたちはある事に気が付きました。“活気のある商店街”“熱気あふれるステージパフォーマンス”“元気にあいさつをしてくれる子どもたち”“笑顔の絶えない仲間たちとの談笑”“「よく来てくれたね」という温かい言葉”そんな光景を目にしているうちに、被災地の人たちのパワーを感じ、逆に、元氣と笑顔をもらったのは私たちなのかも、と…。そういった意味でも、被災地の人たちは、復興に対してとても前向きで、時間はかかるかもしれないが、明るい未来がきっと待っているに違いないと感じさせられました。

被災地を訪問し、新たな人と出会い、新たなことを感じ、一回り成長して笠松町へ帰ってきたかさまるくんとかさまるちゃん。これからも皆さんに笑顔を届けるために会いに行きます。